

## 次のステージを楽しむ 準備が整いました！

設立7期目の2017年度は、新事務所をオープン、依藤が出産、新メンバー・福が入所、いろいろなことが新しく生まれた1年でした。Y3の歴史を振り返ると、杉本が水辺自宅で起業して3期まで過ごし、依藤と2人になった4～6期は(有)ハートビートプランに間借り、3年毎にステップアップしてきました。新しい事務所をフィールドに、次の第3ステージを私達らしく積み上げていきたいと思っています。

そのひとつのプロジェクトがこの「風の便り」です。つつい仕事に追われてしまう日々。でも、業務報告書では伝えきれないことが、私達の仕事にとって本当に大切なことなのではないか、一歩進むごとにそんな想いが強くなってきます。そんな私達の「本当に大切なこと」を、感謝の気持ちとともに、1年に一度お届けしていきます。



Y3  
交換  
メンバー

### 杉本 容子

娘もようやく5歳になり、子育ての仕方も「命を育てる」から「人を育てる」に変わってきました。日々子どもを育てながら、自分も人間修行の毎日です(;^^)

### 福 智菜美

「よかったらウチに来ない?」そんなお誘いから始まったY3との出会いは早くも1年を迎えます。合宿みたいにワイワイ作業する日があったり、真面目に議論をする日があったり。仕事だけでなく、どうやって生きるかを学べる毎日です。

### 依藤 智子

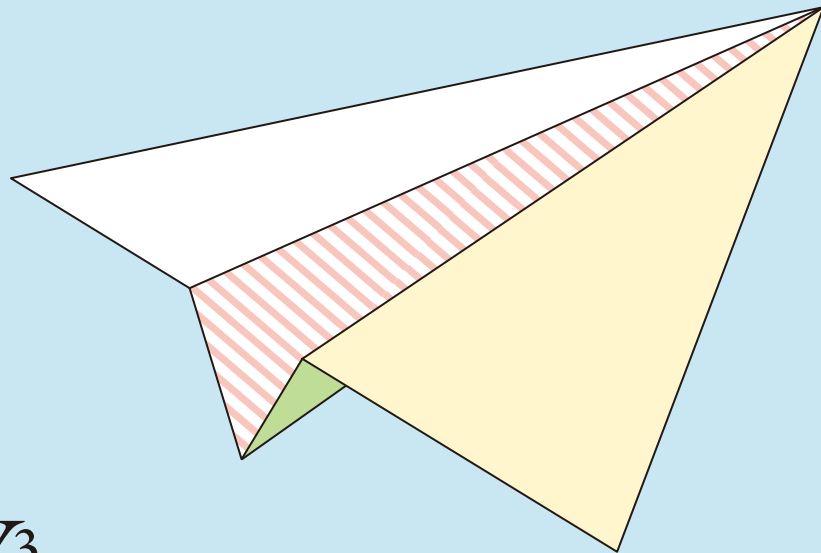
昨年娘が生まれ、春から仕事復帰。諸先輩方から聞いていた通り、矢のように過ぎていく毎日に驚くばかりですが、子育ても仕事も新たな発見を大切に、新米母ちゃんライフを楽しんでいます！

### 廣井 真由美

東横堀川水辺再生協議会事務局長を務めながら、大道芸のClownや淀川河川レンジャーにもチャレンジ。Y3では、研究員にあこがれているので、自称研究員になりました^^

# 風の便り 2018

私たちを支えてくださっているみなさんに  
「ありがとう」の気持ちを込めて



Y3  
lab.

株式会社ワイキューブ・ラボ

2017年度

# プロジェクト紹介

2017年は、いろいろな得意分野をもつチームとコラボレーションを展開した一年でした。  
まちへの想いは同じだけど、一人ひとりのスタイルは違うから、熱い気持ちがぶつかることも。  
そんな気持ちがあるからこそ、きっとまちはおもしろくなると信じています。



大阪市北区

## 堂島・北新地

Y3 × ARC地域力研究所 × BA 一級建築士事務所  
= チームまちプラス

大大阪時代に遊興の花街として栄えた北新地。そのメインストリート再整備に向けて、地域の人と一緒にまちづくりビジョンを作成しました。まちづくりビジョン冊子のこだわりは、北新地にふさわしいスタイリッシュなデザイン。表紙の場所がどこだか分かれれば、あなたも堂島・北新地通！



北新地まちづくりビジョン  
「北新地プライド」  
design:sato design



記録集「淀川アーバンキャンプ  
ARCHIVE 2015-2017」  
design:Park lab.



大阪市淀川区

## 淀川

Y3 × Park lab.

淀川の新たな魅力づくりに向けた社会実験「淀川アーバンキャンプ」も3年目を迎え、デザイン集団Park lab.とのコラボも3回目。悪天候と戦ったこれまでの経験を生かして、オリジナルのテントとテーブルは、運びやすさ・組み立てやすさとデザイン性の両立にこだわりました。記録集は、本棚にしまい込まないようポスタータイプに。



Y3事務所に咲いた  
三宅の花「あざさ」

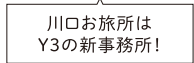


奈良県三宅町

## 三宅

Y3 × ランドブレイン研究所

住民一人ひとりの居場所になるような複合施設をつくりたいという町の想いから、三宅町初となる町民ワークショップを開催。町民の市民参加などソフトな検討はY3、建設に関わるハードな検討はランドブレインと、それぞれの得意分野を活かして計画づくりを進めています。



水都大阪の西の果て(?!)、木津川・川口の水辺にあった倉庫が「川口お旅所」として生まれ変わったのは2017年7月。江戸時代、大阪天満宮の御旅所の地であり、船渡御の目的地であったことにちなんで「川口お旅所」と命名。明治時代には大阪近代化の先端地として川口居留地が開かれ、大阪初のカフェ「キサラギ」もあった場所。その歴史を受け継いで、旅人が立ち寄りたくなるまちの拠点を緩やかに目指しています。

1階はY3事務所とゲストルーム、2階はY3代表・杉本ファミリーの住まい、屋上は木津川展望テラス。



- ① バスで楽ちん徒歩最短コース**  
大阪駅発の市営バス88番天保山行に乗り「川口一丁目」で降りてすぐ。お旅所メンバー好評の楽ちんコース。
- ② 阿波座駅から最短コース**  
地下鉄阿波座駅の8番出口を出て、まっすぐ木津川を渡って右折するだけ、直線距離的には最短距離だけど、木津川大橋の階段を上って降りるのがしんどいという声も。
- ③ 江之子島満喫コース**  
2018年6月に街開きした江之子島。季節ごとに花が咲く歩道が続く野鳥もいて楽しい。お旅所の川側にいるフラミンゴも対岸からばっちり見えます。

川口お旅所は、事務所であり、家であり、シェアオフィスであり、コミュニケーションスペースでもあります。毎日いろいろな人が、いろんな視点で関わっています。

まちの玄関

武田重昭 大阪府立大学大学院(大家)



玄関とは単なる出入り口ではなく、最初に人と人が触れ合う迎賓の場でもあります。明治7年7月、対岸の江之子島に優美な大阪府庁舎が完成しました。開国後の期待と不安のなかで、外から入ってくるあたらしい文化や技術を受け入れるために、川口居留地の目の前に府庁が置かれたのです。当時はここが大阪の玄関でした。たくさんの人や情報がここで出会い、様々な交流がここから広がっていったことでしょう。そんなオープンでフラットな空気が、ここにはいまも流れているような気がします。お旅所の玄関は内側に開くようにしました。いつでも扉を引いて、あたらしいまちの魅力を「ようこそ」と迎え入れたいと思っています。

お旅所生活は

森聡子 設計ふたり+(オフィスシェア仲間)



お旅所生活も約1年になりました。夏は涼しく冬は寒く、冬の寒い時期にはお旅所内をどう快適に過ごすか、ということをY3さんと一緒にあれやこれや試しつつ。昨年末より一人で仕事をするようになり家でも一人暮らし、さすれば一日中さみしく過ごすことになりかねない状況ですが、まだまだ楽しむところがたくさんあるお旅所。仕事の状況により行ったり行かなかったりではありますが、お旅所に行けば話を聞いてもらったり、突発的にイベントが起こったり、私にとって「特別な日常」。いつもありがとう！

## 川|□hygge[vol.00]

～秋山岳志さんによるイギリスの水路を巡るナローボートの旅のお話～  
廣井真由美 ワイクューブ・ラボ(企画隊長)

hyggeとはデンマーク語で居心地のいい時間や空間のこと。「川口お旅所」がまさにそんな時間や空間を共有できる場になれば、ということで「川口hygge」を始めました。大好きな人と一緒にのんびり話を聞いたり、あるいは何かをはじめるきっかけになったり。今後いろんな人が行き交う交差点であり、集いの場だからその緩いながらもちょっとおもしろい展開を目指します。



倉庫の壁を最大限ぶち抜いてつくったお旅所2階の窓。時の移り変わりや船の行き来、自然を感じ、水辺の魅力を再発見する毎日です。